

2014年8月
1064号

万葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5

(一冊の会研究室)

8月24日赤松良子先生、お誕生会

猛暑が続く8月24日、一冊の会の事務所に総勢20名を超えるメンバーが集まりました。赤松先生の登場を今か今かと待ちわびているメンバー。そこに素敵な白いレースのブラウスに“^{さんさん}燦燦と輝く太陽”を思わせるひまわり色のスカーフを纏い、「こんにちは！」と笑顔で一冊の会最高顧問赤松良子先生が登場。均等法生みの親である赤松良子先生をお招きし、先生の85歳のお誕生会。先生の登場と共に拍手がわき上がりました。貫禄と知性が優しい笑顔の奥から湧き出ていらっしゃる世界の赤松先生。偉大なる存在にも関わらず、子を思う母の大きな慈愛をそのまま私達へ注いで下さり、赤松先生の温かい眼差しに終始、「母性愛」を感じました。

赤松先生をお祝いしたいと、国連子先生、(公社)ガールスカウト日も駆けつけて下さいました。「ハッ員で歌い、引き続き一冊の会親善大月24日国連デーに作詞・作曲した私の出逢いの瞬間は 希望に満しいから…♪♪」真心から発せられ

続いて赤松先生へのプレゼント。がダイヤモンド富士を描かれた軸祝いの品々が赤松先生の元へ。そしてご自身が執筆した本「忘れられぬ人々」を一冊ずつ頂いたのです。本の表紙20歳の赤松先生の肖像画が描か



ウィメン日本協会元会長の安陪陽本連盟元事務局長の松本泰子先生ピーバースディ トゥーユー」と全使のカズンの漆戸啓さんが昨年10一冊の会の歌を御披露。「あなたとち溢れていたと 思い出して ほる歌声が響き渡りました。

まず本年毎日賞に輝いた平間さん装の贈呈。その後次々と誕生日のおて、なんと幸せなことに赤松先生よ人々」を大槻会長と一冊の会事務所には、赤松先生のお父様が描かれたれております。この自叙伝には、主に赤松先生のご両親とまた先生と共に活躍したご友人との思い出が書かれており、85年間の人生を振り返る貴重な書です。発刊日であるこの日、最初の読者として赤松先生から本を頂いた大槻会長は登場人物のほとんどの方達を存じあげ、また一冊の会にとっても関わりの深い先生方でもあり、身近に感じられる本です。一冊の会では50周年に向け「忘れられぬ人々」を500人輪読するという新たな目標が出来ました。

毎年赤松先生から“幸福のバラ”の花のプレゼントコーナーがあります。昨年は赤田(旧姓高橋)美香子さんと今元(旧姓佐藤)佑美さん。結婚しバラのお花を頂いて早や一年。幸せいっぱい思い出深く、感謝を述べました。今年は誰かな?と期待のなかに発表。一人は小学校の時より一冊の会員として活動、世界を飛び廻って現在はニュージーラ

ンドで結婚する岸田昭子さん。また冊子万葉第2号に対談者の中に登場している藤澤さん。現在、女医として活躍。お二人の新しい門出をお祝いして、赤松先生より幸福の真紅のバラをプレゼントされました。

来年は誰かな？と期待で若者たちは胸膨らませて、人生にチャレンジ。香風漂う幸の舞台が展開されました。

次に私達若手メンバーはこの一年間櫻華塾で勉強したことを報告しました。「クオータ制について」2人が自身の会社の事例を通して発表しました。

8月は、終戦記念日。戦争の悲惨さを決して忘れてはいけない！平和ほど尊く幸福なことはありません。一冊の会では、その事を毎年確認し合っています。そこで「風船爆弾について」発表。ひとりひとりが恒久的な平和大使の自覚に立って行動しようと呼びかけました。

「人生の本舞台は常に将来にあり」一冊の会永久最高顧問相馬雪香先生のお父様尾崎行雄先生の箴言です。この言葉は副理事長の石田尊昭さんから赤松先生へと贈られました。「赤松先生は84年間、多くの社会貢献をかさねてきましたが、すべて明日への準備期間でした。石田さんの言葉に先生は嬉しそうに^{うなず}かれました。

先生からは「平和なくして平等はない。平等なくして平和はない。これからも人々のお役に立っていきたいと思っている」と、会を締めくくり「今からが本番、皆さんと一緒に進んでいきましょう。」と大きなかいなで包みこんで将来に希望を贈って下さいました。

私たちは、202030運動の一役を担える人材へと成長致します。時代はクオータ制が必要な時です。日本におけるクオータ制の生みの親でもある大黒柱の赤松良子先生、お元気で…。来年の8月24日はさらに進化した一冊の会になってお迎えできます様努力致します。

酷暑続きの毎日。暑さと闘った夏。そこで“海”の歌の大合唱。爽やかな涼風が事務所の中を通り過ぎ、英気を頂いた一日でした。



文責 櫻華塾 光 G 村岡清佳・ライオンキング G 大内伸代